

事業名	島元気郷たねがしま構想事業
-----	---------------

総事業費	1,843 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	地域力の向上
	基本事業名	定住促進

② 実施 (Do)

事業の意図	移住希望者に対して長期お試し住宅の提供を行い、本市に定住してもらうきっかけをつくる。	
事業の実績 と成果	取組内容	UIターン者向けに整備した7棟の住宅の維持管理、入居者対応、情報提供。
	成果	島元気郷定住促進住宅(板敷鼻団地)は、6棟全部入居中であったが、令和7年3月中に1名退去したため、令和7年4月入居者のため修繕を行った。 数年空き家状態であった小牧住宅についても、修繕を行い、令和7年4月から入居可能となった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	住宅の老朽化により、今後修繕費の増加が見込まれる。 入居の手続きをして終了ではなく、UIターン者が本市に上手くなじめるよう交流会を定期的に開催したり、自治会活動に積極的に参加するよう呼びかけを行ったりしていく必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	○UIターン者の定住の支援と地域の活性化に資するための定住促進住宅である板敷鼻団地の戸建住宅は建築から15年以上が経過しており、その都度、必要な修繕を行い長寿命化に繋げていく必要がある。 ○令和5年度に民間借上の4棟分が契約終了となり返還を行った。移住定住施策・事業を推進する上で住環境の整備と確保は必須であり、不動産物件の不足や家賃の急激な高騰により移住希望者用の住宅確保が厳しい状況が今後も続く予想される。大字地域等の住宅整備について検討する協議会を新たに設置し、移住定住を促進するための地域活性化住宅等の整備・確保に向けて調査・検討を行う。 ○移住定住者の増加や関係人口の拡大で地域住民が地域外の人材との関わりを深め、地域の課題解決の取組を推進する。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	定住促進住宅の適正な維持管理を行う。 UIターン者が本市に上手くなじめるよう支援する。
------------	--

事業名	定住促進事業
-----	--------

総事業費	7,159 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	地域力の向上
	基本事業名	定住促進

② 実施 (Do)

事業の意図	過疎・高齢化が進み、地域が疲弊化している中で、地域おこしの中心となる地域を支える者を大字等へ定住させ、若手の地域リーダーの担い手や子どもの数が自然に増えることで、地域の活性化に繋げようとするもの。	
事業の実績 と成果	取組内容	制度内容の周知、申請者聞き取り審査、補助金申請等確認調査、補助金交付決定、実績報告書確認
	成果	市HPや広報誌等により、補助制度の内容を案内した。 令和6年度の補助実績は住宅建築購入補助4件、家賃補助7件であった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	補助要件がメニューによって異なるので、広報誌等の紙幅が狭い媒体での記載に留意する必要がある。 住宅不足、資材の高騰などにより、住宅からの退去を迫られたり、工事の契約金額が変わったりした事例があったので、補助対象者と定期的に連絡をとる必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	<p>○不動産物件の不足や家賃の急激な高騰により移住定住用の住宅確保が困難な状況が続いている。このような状況の中でも移住定住と空き家等に関する相談・問合せは多く、子育て世代を中心に大字地域等への移住定住を促進するため、令和6年度から補助事業の補助率と補助上限額の引き上げ・見直しを行った。ここ最近の特徴としては大字地域への新築住宅建設が増加傾向にある。</p> <p>○地域おこし協力隊・校区(長)・集落支援員・民間事業者等が連携し移住定住に活用できる物件の調査・確保を行うとともに、過疎化・高齢化が急速に進む大字地域に夫婦世帯(満50歳以下)を移住定住させる誘導策として住宅等の整備・確保に向けて調査・検討を行う。</p> <p>○子育て世代を中心に大字地域等への移住定住を促進するため、移住定住支援のさらなる強化を図る。</p>

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	市内在住者や本市への移住検討者に引き続き補助事業の紹介を行っていく。 補助制度の内容を随時見直し、現状にあったものに更新していく。 定住促進協議会(仮)を開催し、市の移住定住施策をブラッシュアップする。
------------	---

事業名	地域活性化住宅事業
-----	-----------

総事業費	1,749 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	地域力の向上
	基本事業名	定住促進

② 実施 (Do)

事業の意図	大字地域に若者夫婦世帯を移住・定住させる。地域リーダーの担い手や子どもの数の増加。定住による人口の増加による地域活動の充実と地域の活性化。	
事業の実績 と成果	取組内容	賃貸住宅8棟の維持管理を行った。
	成果	年度内に複数件の入退去があったが、令和6年度末には7戸・17人の入居となった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	旧教員住宅のため老朽化が激しく、今後も活用していくには多額の修繕費用がかかることが見込まれる。校区への払下げ等、今後検討していく必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	<ul style="list-style-type: none"> ○移住定住用住宅の不足により大字地域の活性化に繋がる「しおさい留学・親子留学生」の受入ができなかった校区があった。全12校区に移住定住用住宅を一定数確保し、移住定住施策のあらゆるケースに協力・対応ができるよう関係機関等との連携が必要である。 ○大字地域等の住宅整備について検討する協議会を新たに設置し、移住定住を促進するための地域活性化住宅等の整備・確保に向けて調査・検討を行う。 ○類似事業との統廃合により住宅にかかる他制度との調整を行い、大字地域への定住促進に効果的な住宅施策を図る必要がある。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	住宅の適正な維持管理を行う。 校区への払下げ等についても検討していく。
------------	--

事業名	空き家バンク事業
-----	----------

総事業費	8,227 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	地域力の向上
	基本事業名	定住促進

② 実施 (Do)

事業の意図	賃貸を希望する空き家所有者・管理者と移住希望者や住居を探している方へ情報提供を行い空き家の利活用を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	空き家の調査。空き家バンクに登録する住宅内見。 リフォームを必要とする空き家バンク登録予定の住宅リフォーム補助。
	成果	空き家バンク登録物件83件、R6年度空き家バンクリフォーム補助6件

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	空き家の問合せが多いことから、空き家の利活用を図るため、空き家バンク登録物件数を増やしていく必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	○「空き家調査」における所有者への意向調査結果と移住定住者用住宅の確保の観点から「空き家バンクリフォーム補助金」の補助率と補助上限額の引き上げ・見直しを令和6年度から行った。移住定住支援のさらなる強化と効果的な情報発信及びニーズに即した相談・対応の充実を図る。 ○地域おこし協力隊・集落支援員・校区(長)等と連携し全校区で空き家調査を継続するとともに所有者等に空き家の有効利活用の提案などを行い、空き家バンクへの登録促進を図る。 ○空き家バンク事業において既存の補助金を活用しないで登録を行う所有者に対し、一律10万円の空き家バンク登録奨励金を令和7年度に創設し、登録促進を図る。 ○移住定住用住宅の不足により大字地域の活性化に繋がる「しおさい留学・親子留学生」の受入ができなかった校区があった。全12校区に移住定住用住宅を一定数確保し、移住定住施策のあらゆるケースに協力・対応ができるよう関係機関等との連携が必要である。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	引き続き空き家バンクリフォーム補助事業を行う。また、令和7年度は、空き家バンクリフォーム補助金を受けずに空き家バンクに登録される方を対象とした空き家バンク登録奨励金を創設する。
------------	--

事業名	島ぐらし魅力発信事業
-----	------------

総事業費	2,132 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	地域力の向上
	基本事業名	定住促進

② 実施 (Do)

事業の意図	種子島西之表市のファンを作り、移住者を確保していくことで、地域の活性化や人材不足等の問題解決に資する。	
事業の実績 と成果	取組内容	首都圏等で開催されたイベントへブースを出展し、移住相談に対応した。 『田舎暮らしの本』2月号に広告を掲載し、移住イベント等で使用するビニールバッグを作成した。 交流体験（短期滞在型）住宅は、5組が利用した。
	成果	短期滞在型住宅については、長期間の入居が多かった。 令和4年度に本住宅を利用した方が、令和6年度に移住してきた事例があった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	短期滞在型住宅については、利用料が安いことから観光目的で利用されている部分もある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	<ul style="list-style-type: none"> ○移住イベント等に参加・相談のあった移住希望者・予定者とイベント終了後も継続して情報交換を行い、交流・関わりを深めており、医療・介護・保育職等の人材が不足する分野での移住に繋がったケースも見受けられた。移住定住用の住宅確保が困難な状況の中、令和6年度の移住者数は75人と前年度の71人を上回った。 ○移住定住用住宅の不足により大字地域の活性化に繋がる「しおさい留学・親子留学生」の受入ができなかった校区があった。全12校区に移住定住用住宅を一定数確保し、移住定住施策のあらゆるケースに協力・対応ができるよう関係機関等との連携が必要である。 ○市街地にある交流体験住宅(納曽・短期滞在型)に加えて、島ぐらしをより体験・感できる農漁村地域内の住宅確保を行う必要がある。 ○地方・離島に関心を有する都市住民等への島ぐらしの魅力発信と本市との交流を深める機会を提供する。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	本市への移住定住人口が増加するように、移住検討者等に本市の魅力や情報を幅広く発信していく。
------------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	東京で開催された移住イベントにブースを出展し、ブースを訪問した移住希望者の相談に対応した。